

No.117

2022(令和4)年
7月1日
発行

浄土真宗本願寺派
和歌山教区日高組
責任者
永原智行

ひかり

本願を信じて念仏する願生の行者は
それがどんな人生であろうと
心豊かに生き、心豊かに
臨終をむかえられる

梯實圓和上著
「白道をゆく」から



阿弥陀さまの前で初参式(5/21 本願寺鷺森別院にて)

ヒダカくん・ひかりちゃんのお話

『御文章』のお話

その20

永原智行

おうせつ ごあくしゅしやう
横截五悪趣章(2帖4)前号に引き続き...

ヒダカくん

阿弥陀さまの目当ての私たちは、末法の時代に生まれたんだ。この時代はお釈迦さまという立派な先生がいなかったためか、智慧もなく、いずれの行も及びがたい身なんだね。このことは、日常生活でもよかれとしていたことも傍目にはよいことをしているようにも見えず、また、良かれとしても危なっかしくてみてられないこともたくさんあるよ。こんな話もあるんだ。

家族の人が入院したときのお話です。

東京のある女子大生が、「自分にはとてもすすてきなおばあちゃんがいた。ある時病気で寝込んでいました。自分はナイチンゲールのような気持ちになって一生懸命看病しました。しかし、おばあちゃんはよくなるどころかそれぎり寝たきり老人になってしまいました。お父さんとお母さんが口喧嘩するようになりました。私はそのとき、家があんまり暗くなってしまったのでふと、ここでおばあちゃんが死んでくれたら、元の明るい家庭に戻れるのになあと思いました」。

誰が悪いわけではない。誰を責めることもできない。おそろく皆さんも、この女子学生のような気持ちになったこともあり、また、介護に疲れた父母のようになることでもあると思います。この中の誰をとってもそれはすべて私自身です。この学生を責めることなどできません。

(2面に続く)

すてきなおばあちゃんのために何でもしようとして、けなげに尽くす少女が、思うままにならないと、現実には生きているおばあちゃんをさえ、心では殺してしまうんだね。

ひかりちゃん

なんだか悲しいお話ね。でも、

私たちのもっているこの悲しさを阿弥陀さまがみて下っているのね。そして、こんな私を漏らすことなく救うと誓われているのね。

ヒダカ このような悲しい性(さが)を業縁(ご

うえん 未来に苦楽の果報を招く因となる善悪の行為)というんだよ。そして、この人間の生き様を五道(五悪趣のこと。地獄・餓鬼・畜生・人・天)というんだ。

ひかり 地獄・餓鬼・畜生。昔そんなものが描かれたものを博物館でみたことあるわ。

ヒダカ 真宗ではそういう美術的なものはあまりないね。

ひかり 絵に描かなくても、私たちは、生きていくこの世界で、地獄を見、餓鬼となり畜生のようにもなるんじゃないの。

ヒダカ そのような私たちを阿弥陀さまは、「大光明を放ちて、その光明のうちにをさめとりまします」(光明の中におさめとって下さいます)とおっしゃっています。

こんな詩があります。

包む

(広野とみ)

ねえ ママあのね 「包む」という字は手でおなかの子供をいたわる形なんだってでも僕はもうこんなに大きいからママは僕を包んだりできないね

ゆうちゃん あのねあなたの身長がママを越えても

離れている時間が

多くなってもやっぱり包んでいたいな

見えないつつみがまえを

こんなに大きくしてー

ママのお母さんが

今もそうしてくれているように

ゆうちゃんとママが呼び合いながら、母によって包ま

こまれている様子が窺えます。わたしたちも阿弥陀さま

の慈悲によって包まれ、おさめとられているのです。

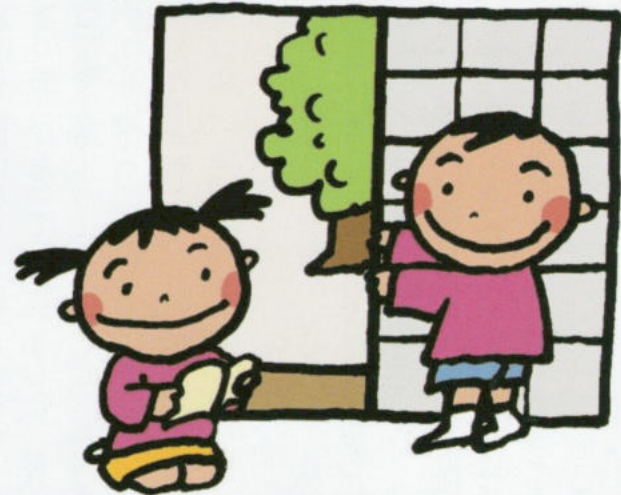
ママがゆうちゃんを呼ぶ声は、わたしたちにとっては南無阿弥陀仏なのです。

日高組団体参拝の詳細な募集要項などは次号で発表いたします。



- 1班 2023.4.1(土) 40名定員
対象者 総代会・仏教壮年会・兼職寺院関係者等
 - 2班 4.11(火) 40名定員
対象者 仏教婦人会・寺族女性会・寺院関係者
 - 3班 4.28(金) 40名定員
対象者 専業寺院関係者・その他一般参拝者
- 以上の日程で予定しております。
各コースの詳細については秋頃に決定し、寺院宛、組報ひかり、ホームページでお知らせいたします。
なお、今回の法要団参での納骨団参、帰敬式(おかみそり)受式は行程の都合によりいたしません。

多くの皆様のご参加をお待ちいたします。



定期的に換気しましょう

親鸞聖人のご誕生を記念して建てられた「日野誕生院」



親鸞聖人の誕生を顕彰し、法界寺に隣接して建てられたのがこの誕生院です。

西本願寺第19代本如上人が親鸞聖人のご誕生を顕彰されたことをはじまりとしており、その後第20代広如上人の時に法界寺境内に有範堂が建立されました。大正12年の立教開宗七〇〇年を記念し、昭和6年に落成したのが現在の日野誕生院です。

本堂は真宗寺院としては例のない三方に回廊を巡らせたものになっていますが、これは聖人の当時の面影をしのぶことができよう、平安朝様式で造られたものです。中央の厨子には本尊阿弥陀如来が、北余間には父有範の木像が安置されています。境内には聖人産湯の井戸や胞衣塚があります。

現在、改修工事のため拝観はできませんが、令和5年より再開されます。上洛の際にはぜひお立ち寄りください。

住所 京都市伏見区日野西大道町19

【応募方法】

ハガキ、日高組ホームページにてご応募してください。

〇ハガキで応募

裏

表

- ① 法悦クイズの答え ※必須
- ② 住所 ※必須
- ③ 氏名(ふりがな) ※必須
- ④ 年齢
- ⑤ 電話番号
- ⑥ 所属寺(〇〇寺) ※必須
- ⑦ 「ひかり」に対するご意見
ご感想等

〒649-1113

和歌山県日高郡
由良町阿戸244番地

教専寺内 日高組事務所 行

63円
切手

法悦クイズ

Q..浄土真宗が成立した
しるしとなる書物は？

- ① 親鸞聖人の『教行信証』
- ② 親鸞聖人の言行録『歎異抄』
- ③ 蓮如上人の『御文章』

次の①～③の中から一つ選んで番号を書いてください。

116号の正解は

「③名号などの本尊」でした。

莊嚴壇はご家庭にある仏壇と同様、浄土を表しています。数多く供えられた花、果物などの供物、灯明やお香も皆浄土の情景なのです。

〇ホームページから応募

日高組ホームページのメニュー内にあります応募フォームより、必要事項をご記入の上送信ください。

日高組ホームページへのアクセス方法

下記のいずれかの方法で、日高組ホームページにアクセスできます。

〇URLを直接入力してアクセス

下記のURLを直接入力してアクセスしてください。

<http://hidakaso.jimdo.com>

〇バーコード(QRコード)からアクセス

お使いのスマートフォン等にQRコード読み取り機能で右のQRコードを読み取るだけでURLが表示されます。アドレス入力しなくても手軽にアクセスできます。



正解者の中から、次の方に粗品を進呈いたします。

【応募締切】

2022年9月30日(必着)

発表は次号です

☆正解者の中から抽選で10名の方に『粗品』を進呈します。

- | | |
|------------|------------|
| 由良町 岩根登代美様 | 由良町 岐山雄一様 |
| 由良町 田中宏様 | 由良町 宮本みさほ様 |
| 由良町 中崎エミコ様 | 由良町 西脇公一様 |
| 由良町 大浦洋子様 | 由良町 小林尚美様 |
| 御坊市 塩田廣一様 | 由良町 中口小夜美様 |

法話

二河白道

にがびやくどう

二河白道とは、この「わたし」が信心を獲て、浄土に往生するとはどういうことかを、七世紀の中国のお坊さんである善導大師が示された喩え(たとえ)話です。観無量寿経の註釈をされた方で、二河白道は、その中でたとえ話として表されています。

お話はたいへん映像的ですので、皆さんがイメージしやすいように、先ず二河白道の図柄を説明します。映画の画面を想像してください。画面の上部北東から下方南西に向かって、画面を縦斜めに横切るように大きな河が流れていると思ってください。その河のちょうど真ん中あたりを、一本の白い道が河の東岸から西岸に向かって、その河を横切っています。

二河という、二本の河が平行に流れていると想像されたかもしれませんが、このお話では、白い道を挟んで、西側に流れる火の河は南に向かい、東側に流れる水の河は北に向かい、どちらも際限なく続いています。火の河は火炎の波が逆巻き燃えさかっています。もう一方の水の河は激流が渦を巻いてうねっています。

二河の東側の岸にぼつんと一人の旅人がいます。旅人は後ろから群賊悪獣に追いかけてられています。群賊というのは盗人であり人殺しをする輩です。悪獣は人をも食べかねない獣です。旅人を襲わんとするそんな群賊悪獣に追い詰められて、旅人は逃げ道を無くしている状態です。目の前の河を渡って西の岸に渡りたいのですが、その河は、一瞬で人をも焼き尽くす炎逆巻く火の河と、人をも飲み込む激流渦巻く水の河が旅人の行く手を阻んでいます。唯一、向こう岸に渡れる術があるとすれば、それは



その河を横切る白い道しかありません。道といっても、その幅わずか四、五寸だということです。15センチほどです。平均台の幅程度だと思ってください。二河の川幅は、百歩だと言います。百メートル足らずでしょうか。河の上でなくても、15センチ幅の平均台を百メートル歩くのは難しいですね。

また、東の岸にはお釈迦さまがおられ、西の岸には阿弥陀さまがおられるというのです。これでは舞台と登場人物が設定されました。あとはストーリーがあれば完結しますが、二河白道は物語ではありません。簡単に申しますと、阿弥陀さまとお釈迦さまと念仏者である私を非常に端的に表してくださっています。二河白道は、私は何者で、阿弥陀さまとお釈迦さまは私にどのようなにはたらいてくださっているのかを語っています。

皆さんの頭の中に、二河白道の映像が出来上がっている前提で、どのような喩えが語られているのかをお話します。

このたとえの舞台設定で、西の岸の阿弥陀さまと東の岸のお釈迦さま以外はすべてこの私であり、私の心のありようなんです。まず旅人は人間である私です。

私を襲わんとする群賊悪獣も私自身です。そして目の前の、人が渡ることを拒絶する火の河水の河も私自身です。

東の岸とは私のいるこの娑婆世界であり、無人の広野という仏縁に導く人にも遇わず、たった一人で旅をする私は、この迷いの世界で孤独と不安に苦しんでいるというたとえです。そんな私に襲いかかろうとしている群賊悪獣は、自分の煩惱に荒れ狂う肉体と心を表していると言います。(善導大師のによると六根、六識、六塵、五陰、四大に喩えると言われ人間が持つ苦しみの元となる要因といってよいでしょう)

旅人の行く手を阻んでいる火の河は、瞋憎(しんぞう)といって怒りや憎しみを表しています。自分の都合の悪いものに対して憎しみを燃やすと言いますね。水の河は貪愛(こんあい)といって、貪りや愛着心を喩えています。次から次へと湧いてくるのが、きりのない欲です。ですから、火の河も水の河も、私がつ心のありようなんです。

仏法に会うことなく、孤独のうちに苦しみ人生の瀬戸際に追い詰められている私。

振り払っても振り払っても追いかけてくる煩惱と、目の前の怒り憎しみ、我欲の河を前にして躊躇している私が諭えられています。しかし、旅人は目の前の河を渡る白い道を目にします。細い頼りなげな道ですが、それを渡るしかない決心するので。

その決心とほぼ同時に、旅人に聞こえて来る声があります。一つは東の岸のお釈迦さまの声です。

「きみただ決定してこの道を尋ねていけ。必ず死の難なげん。」

この白い道を行け。火の河水の河に落ちることはないぞと言われます。お釈迦さまの声ですから、即ち仏法を聞いてくれと示されているのです。

お釈迦さまの声に重なるように、西の岸からも声が聞こえます。西の岸とは即ちお浄土で、その声の主は阿弥陀さまです。

「なんじ一心に正念して、ただちに來たれ、われよくなんじを護らん。すべて水火の難に墮せんことを畏れざれ。」

火の河、水の河を畏れるな。疑うことなく念仏して、今すぐ浄土に來たれ、おまえを必ず救うぞ、とのおさとしです。

お釈迦さまの「この白い道を行け」との声と阿弥陀さまの「ただちに來たれ、そのまま來い」という声をかけられている私は、この白い道を渡るしかないのです。お釈迦さまの言うとおりの仏法を聞き阿弥陀さまの言われることを疑いなく聞き、「南無阿弥陀仏」と念仏して白い道を渡る私はすでに信心を獲た念仏者で、間違いない西の岸、お浄土へと向かう者となるのです。

仏法に遇おうともせず、娑婆の火宅にいながら煩惱に苦しむ私が、なぜ白い道を見いだせたのか？

お釈迦さまの声と阿弥陀さまの声が、そんな私になぜ聞こえてきたのか？

それは私自身が人生の、命の瀬戸際に追い詰められてようやく、自分というものが見えたからです。群賊悪獸と火の河水の河が見えて、それに恐れおのいたのは、自分の煩惱や我欲が見えたからです。自分がそういう罪悪深重の者であることがわかったからです。(これを機の深信と言います)それと同時に、お釈迦さまの説法である仏法に触れ、阿弥陀さまの救いの声が聞こえたこと(法の深信と言います)、白い道を渡ろうと決心するので。

旅人が東の岸で聞こえた声は、娑婆世界で遇うお釈迦さまの説法(釈尊の発遣の教法)であり、西の岸から聞こえた声は、お浄土におられる阿弥陀さまの喚び声(阿弥陀仏の本願の招喚)といわれます。

白道は旅人である私に用意された阿弥陀さまお手回しの道、即ち阿弥陀さまのご本願です。善導大師は、ひとが持つ煩惱の中に、ほんのわずか

(大河を渡る細い道程度の)でも清浄の願往生心が生じることを、わずか四五寸幅の白道に諭えています。

さらに親鸞聖人は、煩惱まみれの凡夫がみずから清浄な心など起こさないと、清浄な信心は、阿弥陀さまのご本願によって「生ぜしむ」、ご本願のおはたらきによって生じるのだと、白道に諭えられています。自分は凡夫で自ら往生出来ない者と深く信じ(機の深信)、阿弥陀如来の救いのはたらきを信じて疑われない(法の深信)ことを頭かにすること、親鸞聖人は他力の信心を示されています。

白道を歩んだ旅人は、ようやく西の岸にたどり着きます。旅人が他力の信心を獲る前は、白道は細く頼りない道で、命を奪われんばかりの火と水の河を前にしてためらっていました。いったん進むと決めた白道は、実は旅人をお浄土に導く阿弥陀さまのご本願であったのです。白道は阿弥陀さまの仰せを聞く私、念仏する私が歩ませていただく大道なのです。(永原)

門徒心得

親鸞聖人の著作『教行信証』

きょうぎょうしんじょう

『教行信証』は詳しくは『顕浄土真実教行証文類(けんじょうどうしんじつぎょうぎょうしんじょうもんるい)』と言い、親鸞聖人が心血を注いで浄土真実の教えを体系的に説かれた浄土真宗の根本聖典です。

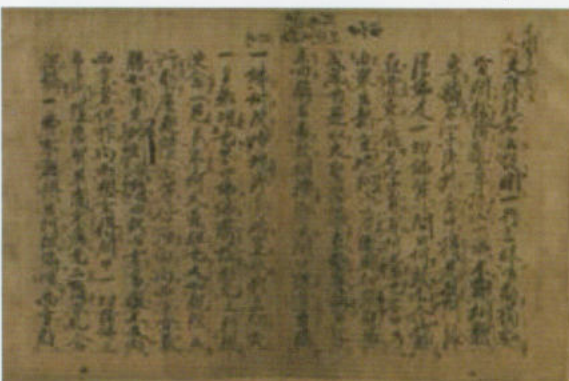
『ご本典』とも呼ばれ、この書をもって立教開宗、すなわち浄土真宗という仏教が成立したとされます。

元仁元年(一二二四)に書きはじめられ完成したのは20年余り経った親鸞聖人75歳頃だといわれています。

『教行信証』は六巻からなり、「教」「行」「信」「証」「真仏土」の五巻で浄土の真実を、最後の「化身土」巻で仮の教えと偽の教えを明かされ、真実である阿弥陀仏の本願を信じて、皆が浄土に救われることを願われた内容です。

このご本典の記述により一二二四年を立教開宗の年と定めていることから、二〇二四年は立教開宗八〇〇年にあたります。

この記念すべき年をお迎えするにあたり、来年には宗祖親鸞聖人ご生誕八五〇年ならびに立教開宗八〇〇年の慶讃法要をお勤めいたしますので、ともにお迎えいたしましょう。(鈴木章吾)



坂東本『教行信証』(東本願寺蔵)

仏式起工式

由良町 蓮専寺

2月19日、ご門徒、細川祥秀さん宅の家屋新築に伴い起工式が挙行されました。今にも雨が降りそうな天気の中、家族、業者、ご両親が集い仏教様式にて厳かにお勤まりです。生活の中でのあらゆる儀式に仏教様式を取り入れて下さることは嬉しいことです。祥秀さんは蓮専寺日曜学校の卒業生、お二人の子どもを授かり、初参式は家族でお寺にてお参りいただき、子どもたちも日曜学校を卒業いたしました。

この度は家屋新築の大仕事、ようこそ、ようこそ、尊い起工式の仏縁を頂きました。また夜は本宅にお招きいただき楽しいひと時を過ごさせていただきました。

まもなく完成することでしょう。楽しみです。 (岩崎)



宗祖親鸞聖人の生誕をお祝いする法座「降誕会」が組内各寺院で営まれました。餅まきが恒例の寺院もコロナ禍の影響で、柏餅を配布したりと創意工夫がなされた法要でした。

また、宗祖ご誕生の5月21日には鷺森別院でも降誕会が勤められ、午前中には初参式が行われ、組内から覚性寺の埜崎住職夫妻と長女さんが参拝しました。(一面参照)

宗祖降誕会



妙願寺(志賀)降誕会 5/1

組内寺院の出来事



善宗寺(日高町柏)ではゴールデンウィークに帰省された家族をはじめ老若男女が集まり、賑々しく宗祖親鸞聖人のご誕生をお祝いしました。(5/5)

シリーズ

過疎問題を考える

妙願寺 楠原晃紹

花まつりを続けたい

仏教寺院として、仏教の開祖「おしゃかさま」のご誕生を祝う灌仏会（かんぶつえ）「花まつり」をお勤めし始めて20年を超えました。以前は日曜学校入校式を兼ねて、初々しい新一年生が参拝され、母親の膝に乗って甘茶を誕生仏にかけたりする光景が当たり前でした。しかし、年々新入学生も減少し、現在地元区の小学生はご門徒以外を含めてもわずか7名、今年も入学生はいません。

入校記念に渡してきた日曜学校せいでんとお念珠も在庫が減ることがない状態ですし、子どもたちもスポーツクラブなどでなかなかお参りいただけないことが続き、誰も集まらずに形骸化している行事となってきたことに少なからず危機感を持っていました。

そこで現状打破を考えるわけですが、以前からお寺のヤギを家族でよく見に来られていた地元の主婦に一肌脱いでいただくとうと、来坊のとき思い切って声をかけてみました。その方は、海岸などの清掃ボランティア等を通じて子育て世代の親たちと交流されている嶋田奈津子さんと3児の母親でもあります。ご主人にもご協力いただき「ウクレレ弾き語りLIVE」を、妙願寺花まつり企画として4月2日に開催することになりました。

嶋田ご夫婦によるSNSとチラシでの企画発信により、彼女の交友関係にも周知され、町内外各地から総勢40名程が集まりました。子育て世代の親や、子ども若ものへのご縁づくりの一環としても意義深いものであり、お寺にご縁の少ない方にもなるべく簡素で理解しやすい内容での法座を心がけました。



おつとめは「三帰依文」「念仏」の音楽法要を、法話は「天上天下唯我独尊」（あなたという存在はこの世でたったひとり、尊いのです）と・・・、各々で甘茶を誕生仏に掛け焼香、そしてメイソインベントの弾き語りライブ、飛び入りのフラダンスも歌に合わせて披露され大いに盛り上がりました。子どもたちは泥んこになりながらもヤギとふれあい、境内でお菓子まきのあとはコーヒー、ジュースのおやつタイムで初顔の方々とも交流でき、大盛況のうちに幕を下ろしました。

少子高齢化が急速に進み、新型コロナウイルスの影響もある昨今、子どもが集まらない、法座活動に限界を感じるなど、現在そして将来の寺院活動に不安を抱きながらも、地元の子どもたち以外にも目を向け、少しの勇気とアイデアで多くの方がお寺に足を向けてくださるイベントが開催できました。そしてなにより、なんとか「花まつりを続けたい」という思いで、仏教寺院本来の活動が実現できたことに感謝いたします。

過疎対応支援員としても、今後教区内で寺院活動に不安を感じてらっしゃるお寺のサポートにつながるような活動をしていきたいと思えます。

物故会員追悼法要・総会 3年ぶりに開催

仏教婦人会



4月29日、由良町大引浄明寺にて日高組仏教婦人会の総会が開催され総勢44名の会員、僧侶が集まりました。

総会に先立ち、3年間の物故会員87名の追悼法要が勤修され、法話を由良町里蓮専寺衆徒の岩崎信師からお取次ぎをいただきました。



岩崎布教使、なりたてのホヤホヤです

読者の声

※いつも法悦クイズを楽しみにしています。門徒心得や、語句の現代語訳も勉強になりました。

院主さんの説法によります。読者の声も皆さんの思いが見られて楽しいです。

※いつも充実した内容で楽しく読ませて頂いています。ウイズコロナの日々ですが、中祖忌法要も無事行われました。今は世界の平和を祈っております。南無阿彌陀仏

※文字も大きく読みやすいので、読んでいます。

※色々なことがためになり、楽しみに読ませてもらっています。

※コロナ三年目の春、生死の世界生かされて、私達平和を願わない人はいないと思います。ウクライナの事を思うと涙が出ます。一日でも早い平和を・・・願うばかりです。

※いつも、ひかり読ませてもらい、教わる事ばかりで、感謝しています。

※知らない事おしえていただきありがとうございます。読んでいるうちもっと知りたいとおもいます。

※毎号、興味深く勉強になります。



日高組通信

☆ 行事 報告

◎令和3年度日高組定期組会

3月26日、由良町大引浄明寺で定期組会が開催され、令和3年度事業報告、決算報告並びに令和4年度事業計画、予算案が審議され、原案通り承認可決されました。また、組会に先立ち令和3年度日高組役職物故者追悼法要が勤修され、鈴木悟峰師(善宗寺住職)より法話いただきました。

◎仏教婦人会

4月29日、由良町大引浄明寺で日高組仏教婦人会総会と会員の追悼法要が開かれました。3年間で87名の物故者追悼法要で、総勢44名が参加しました。

◎門徒総代会

5月21日、日高町志賀即生寺で日高組総代会が開かれ、役員改選などが行われました。

◎組報編集委員会

6月6日、日高町柏善宗寺で組報「ひかり」の編集委員会が開かれました。

◎仏教壮年会

6月16日、由良町里蓮専寺で三役、正副部長のみで日高組総会が開催されました。

◎組内会

6月18日、日高町小浦円行寺で第1回組内会が開かれ、上半期事業計画、日高組団体参拝などについて協議しました。

☆ 行事 計画

状況によっては急な中止もあります。

◎門徒総代会前期研修会

7月16日(土)午後1時半より、由良町衣奈の西教寺にて開催予定です。講師は有田北組極楽寺の三浦住職です。

◎仏教壮年会

8月28日(日)午後7時半から由良町里蓮専寺で研修会が開催予定。

内容は『仏教講座』浄土真宗における仏事(葬儀・法事等)の意義で、岩崎部長が講師となって開催されます。

◎青少年部

日高組キッズサンガを10月以降で開催予定です。

ひかり編集委員会(広報部)では読者の皆さんからの投稿を募集しています。法悦クイズには是非チャレンジしましょう。同時にご意見で感想を添えていただければ幸いです。

外から帰ったら
うがい手洗いを
忘れずにね

